

会員刊行書紹介

大分県老人福祉事業の先駆者

矢野甘泉の苦闘の記録

『黙々茨道譚』

矢野 春 海著

今から二十八年前に遷化致しました禅僧 矢野嶺雄（甘泉）の一代記『黙々茨道譚』を長男の嫁に当たります私が書きました。

父が遷化して二年ほど経った頃、父の遺徳を憶うにつけ、このままでは、父の存在したことがすべて消え失せ、何も残らないと考え、非才を省みず筆をとったのでした。

父は幼い頃、禅の掟の厳しい寺で育ち、勉強して、三十歳にして天の啓示を受けるが如く、老人福祉の絶対的に必要なことを悟りました。以後、すべての欲を捨て、生涯をかけて黙々とこの道一筋に精進努力し、「迎え得たり米寿の春」との辞世の漢詩を詠み、去って逝きました。この世に稀に見る人物であったと回想しています。

永い年月を経て、今事に触れ、物にふれ、父の遺徳を思い

出しております。この『黙々茨道譚』を読み返して見ましても、懐旧の涙を禁じ得ないものがあります。

『別府史談』に載せて頂けまして、冥府の父も喜んでいることと感謝致しております。

（矢野春海 記）

